

## 羽田空港で「ひまわり支援ストラップ」トライアルで配布



日本空港ビルディング株式会社と東京国際空港ターミナル株式会社は、羽田空港第1・第2・第3ターミナルをご利用される、知的障害・精神障害等や糖尿病慢性疾患のように外見からは判断できない多様なお客さまが空港を利用する際、安心してご利用いただく取り組みの一つとして、施設内で誘導や支援を受けやすい環境を作る「ひまわり支援ストラップ」<sup>※1</sup>の配布をトライアルで各ターミナルの案内カウンターにて行います。

外見から障害の有無が分かりづらい方は、周囲の理解を得ることが難しいという課題があります。

「ひまわり支援ストラップ」は、この課題を少しでも解決するためのもので、ストラップ着用により支援や配慮を必要とする場合があることを周囲に知らせ、空港職員が速やかに支援する環境を整備します。本取り組みは、ヨーロッパ、米国の海外空港を中心に活動の拡大をしており、羽田空港においても「HANEDA ダイバーシティ&インクルージョン」<sup>※2</sup>のテーマのもと、SDGs（持続可能な開発目標）の理念「誰一人取り残さない（leave no one behind）」に資する取り組みとして実施します。

※1 ひまわり支援マークの取り組みは、2016年ロンドンのガトウィック空港から「外見からは明らかにならないような障害があるお客さまにどのようにしたら気づけるだろうか」という問いから始まったもので、イギリスの“Hidden Disabilities Sunflower Scheme Limited”が製作。現在、世界20カ国98空港で採用、または採用予定となっている取り組みです。

※2 日本空港ビルグループがSDGsの取り組みの一環として“人種、国籍、身体機能を越えた、多様性（ダイバーシティ）の素晴らしさ”を、国内外のさまざまなお客さまが行き交う羽田空港から発信していく推進活動。

1. 配布期間：（トライアル）2022年3月1日（火）～2022年9月30日（金）

2. 配布場所： 第1ターミナル 地下案内カウンター、1階空港サービスセンター、2階南案内カウンター  
第2ターミナル 地下案内カウンター、2階北案内カウンター  
第3ターミナル 1階案内カウンター、3階案内カウンター  
※お渡しの際にQRコードによるアンケートのご協力をお願いしております。  
※ストラップは無償で配布しております。

3. 支援団体：主催 中央大学研究開発機構（秋山・丹羽研究室）、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団  
共催 一般社団法人全国空港ビル事業者協会

本件に関するお問い合わせ先（メディア）：

日本空港ビルディング株式会社 広報・ブランド戦略室 TEL:03-5757-8030 9:00～17:30（土日祝除く）

東京国際空港ターミナル株式会社 企画部 TEL:03-6428-5901 9:00～17:30（土日祝除く）

## 別紙

(参考) その他の羽田空港のバリアフリーへの取り組み

## ① 介助サービス

羽田空港ではサービス介助士の資格を持ったエアポートコンシェルジュによる「介助サービス」も無料で行っております。障害のあるお客さまやご高齢の方が、電車やバス等で羽田空港に到着してから空港内の移動をお手伝いするサービスであり、ご希望の際は事前にホームページから予約を承っております。ご不明な点がございましたら、お電話にてお気軽にお問い合わせください。

## ◆介助サービスの申し込み・ターミナル施設に関するお問い合わせ

羽田空港ホームページまたはターミナルインフォメーション(電話)よりお申し込みが可能です。

ホームページ : <https://tokyo-haneda.com/service/facilities/assist.html>

電話 : 03-5757-8111 (受付時間 国内線:5:00~25:00、国際線:24時間) よりオペレーターへお申し出ください。

## ② コミュニケーションボードの設置 (日本語、英語、中国語、韓国語対応)

音声によるコミュニケーションが困難なお客さまや、日本語がわからない外国人とのコミュニケーションを円滑におこなえるよう空港案内に特化したコミュニケーションボード (イラストを指さして相手との意思疎通をはかるツール) を作成し案内カウンター、バス乗車券カウンターに設置。

## ③ カームダウン・クールダウンスペースの設置 (国内線のみ)

発達障害や知的障害、精神障害等のあるお客さまやそのご家族が空港ご滞在中に他者からの視線が遮られた場所で、気持ちを落ち着かせるために有効なスペースとして、保安検査場通過後のエリアに設置。

## ④ 英国 SKYTRAX 社が実施する 2021 年国際空港評価において、PRM※ 対応部門で 3 年連続世界第 1 位を獲得。

※ Persons with Reduced Mobility (高齢者、障害のある方や怪我をされた方) の略

以上